

くさぶえ

第72号

千葉県ことばを育てる会

令和3年9月発行

<事務局>

〒292-0822 千葉県木更津市桜井 1450

Tel&Fax 0438-36-2605 宮本方



《ごあいさつ》

千葉県ことばを育てる会 会長 加藤 志恵

前回の東京オリンピック開催の8カ月後（昭和40年6月）、「千葉県言語障害児をもつ親の会」が結成され、現在の「千葉県ことばを育てる会」にいたるまで今年で56年。今はことばの教室がなんと子どもたちの身近にあることか。「いつでも、どこに住んでいても、相談・指導を受けられるようにしたい」と、脈々と途切れることなく、子どもたちとことばの教室のために自治体や関係機関への要望活動を始め、親と親をつなぐ架け橋として活動してこられたお母さん、お父さんたちに感謝の気持ちでいっぱいです。

新型コロナによって一変した私たちの生活。前年度は千葉県ことばを育てる会も難しい判断を何度も、何度も迫られてきました。その先頭に立って導いてくれた 牧 由加 さんが長年務められた会長から相談役へ。元会長、元全国ことばを育む会副理事長を務め、最近では相談役として私たちに励まし続けてくれた小宮幸子さんが勇退されました。

正直、次の会長を引き受けると返事をした頃と全く変わってしまった状況にお断りする事も考えました。不安ながらも今思うことは、役員、理事、各地の親の会の皆さんと1つのチームになれるように話し合いをより大切に努力していきたいという事です。ただ今、役員全員で ZOOM や YouTube などの勉強をしています。はじめは ZOOM をスマホにダウンロードするところから始まりましたが、少しずつ使い方にも慣れてきました。今後はコロナに負けずに、理事会や10月の講演会を開催していきたいと思っています。会員のみなさんとたくさんお話できる事を楽しみにしています。

最後に、私の背中を押してくれた言葉をご紹介します。

※（略）自分の子がどのような状態か？ 先生は子供をどのような伸ばそうとしているのか？ ……と、親もしっかりと先生の意図を理解してわが子を育てていきたいと思えます。また、子どものために先生に協力し、先生が仕事しやすい条件を整えていかななくてはならないと思えます。わが子が受けた教育がなくならないように！ 未来永劫つながっていくように！ 活動を続けていきましょう。

※創立50周年記念誌『ことばの教室と歩んだ50年』（平成28年発行）90ページに掲載
当会の顧問、故・行木富子氏の文より

コロナ禍特集第2弾

昨年度、9月発行のくさぶえ第70号では「新型コロナウイルス感染特集」として「ことばの教室の今」、「感染予防についてのアンケート」をまとめてご報告致しました。内容としては、ことばの教室での先生方のコロナ対策としての環境整備に焦点をあててみました。

今回の第72号では、コロナ禍での親の会の運営についての各地区の状況や取り組みに目を向けてみました。

※回答頂いた地区 8地区

(野田地区、長生地区、館山地区、鎌ヶ谷地区、夷隅地区、船橋地区、松戸地区、山武地区)

【アンケート内容と回答】

No.1 総会開催についてお伺いします。

通常通り開催した 開催しなかった 書面表決として開催した その他

◆書面表決として開催した→7地区 ◆その他→1地区 (ZOOM を使用して開催)

No.2 千葉県ことばを育てる会が実施した「ことば誌」298号、299号の家庭回覧について

家庭回覧できた (配慮したことなどもお知らせ下さい。)

◆5地区

- ・1回ごとの消毒、読む際のマスク、手袋着用をお願いをした。
- ・待合室でも読めるようにした。
- ・2週間ずつ間を空けた。

家庭回覧できなかった (回覧できなかった理由をお知らせください。)

◆5地区

- ・回覧ルートが確立していないので難しいために実施しなかった。
- ・一部分を印刷して全家庭に配布し、感想を地区の広報で紹介した。
- ・他の人と共有することが難しかった。
- ・名前を書いて確実に各家庭に回覧することが難しかった。
- ・感染が心配との声があり、役員担当者のみとなった。

<注意>

地区内で回覧できた所とできなかった所があり両方に✓が入っていたため地区の計が多くなっています。



No.3 コロナ禍での地区の会費の集金について状況を書きください。

通常どおり集金できた (館山地区・野田地区・長生地区)

- ・集金はできたが活動が中止となったため半額とし、今年度は通常通りとした。

集めることができなかった (☑なし)

その他

- ・令和2年度から郵便振り込みになり、会費を減額とし集金したが振込者の名前が直ぐにわからない。
- ・集金はできたが活動ができなかったので相談の上、町の分のみ返金した。
- ・学習会等の見合わせがあり、入会者が減り会費を集めることに抵抗があった。
- ・通常通りとはいかなかったが何とか集めることができた。
- ・校内に入ることができず、保護者会等も集まることができなかったため会費を集めることが非常に難しかった。
- ・保護者会などができず、直接保護者の方に親の会についてお知らせすることができな

かった。

- ・保護者にお会いできない時は、どうしても先生方をお願いすることになりますが先生方の受けとめ方に差があり難しさがあります。

- No. 4 コロナ禍でも実施できた取り組みについて、よかったことやご苦労をお知らせください。**
- 緊急事態宣言発令中の時はできなかったけれど、解除された時におしゃべり会を実施した。その際は換気、消毒等の感染対策をできる限りした。
 - ことば誌の印刷、配布をした。普段は来校できた保護者にしか見て頂けないものを全家庭に配布できたのでとても良かった。対応内容、方法の決定、印刷は時間がかかった。
 - 参加者を制限し、運営委員会は開催でき各校の情報交換が行うことができた。市教委との懇談会も例年通りできた。
 - 卒業後の進路交換会は中止となったが、役員同士意見を出し合い、形を変えてアンケート形式にして活動した。会員への情報が少しでも届けられて良かった。
 - 昨年度はほとんどの活動が中止になったが後半の連絡会は ZOOM を用いて実施できた。
 - 広い畑での学習会をした地区、家庭でできるゲーム（つづり方、遊び方）を紹介し配布した。
 - 制作キットを配布してのレク
 - 役員の協力で会報（「つながり」）の発行を初めて行うことができた。広報（「きずな」）を発行。面談

No. 5 コロナの収束を迎えた時に一番実施したい事業は何ですか？

- | | |
|--|-------|
| ○総会、親子レク、集まったの交流 | 館山地区 |
| ○体験学習会（親子）を行い、コミュニケーションをとりたい。 | 長生地区 |
| ○ZOOM で実施している活動（総会や打ち合わせ等）をリアルで実施する。 | 野田地区 |
| ○親同士の交流会を再開してほしいという意見が多い。 | 々 |
| ○会員同士の交流会を再開したい。 | 松戸地区 |
| ○毎年子どもたちが楽しみにしていたクリスマス会の開催 | 鎌ヶ谷地区 |
| ○親子レクによる学校間の児童と保護者の交流を感染の心配することなく行いたい。 | 夷隅地区 |
| ○親子レクレーションを復活させたいです。 | 船橋地区 |
| ○お楽しみ会、授業参観、懇談会、会員の顔合わせ。 | 山武地区 |
| ○保護者から（学校や専門機関との相談会、協議会の場があったらと思う。） | 々 |

～アンケートにご協力頂きありがとうございました。～

私たちは、昨年よりコロナウイルスという魔物に直面しその対策に翻弄されました。でも知恵を絞り情報交換、情報共有によって感染対策に努めました。そして親の会の活動が各地区中止となりましたが何もできないというつづやきから、どうしたら活動ができるだろうか～？何かできることがあるのでは～？という前向きな考え方が皆さんの心に芽生えたことをこのアンケートに目を通していくうちに感じました。各地区の運営の仕方は、先生方が指揮をしている地区もあれば、保護者が先を走っている地区もありますが一つでも活動のヒントになればと思います。【子どもを真ん中に親と先生が三人四脚で】の目標に向かって少しでも参考になるように県の会は情報をお届けしていきます。



親の会卒業にあたって

千葉県ことばを育てる会 元会長、元相談役
NPO 法人全国ことばを育む会 元副理事長

小宮 幸子

現在 29 歳になる次女が口唇口蓋裂で生まれ、手術などを経て 3 歳から言語指導を開始、小学生になり「ことばの教室」を知り 2 年生の時、大網に引っ越したことを機に山武郡市親の会の役員になりました。何もわからないまま県の理事会に行きました。そこで県の役員さんから「山武郡ではどうなっていますか？」と質問されましたが何も答えられない自分がいました。ただ色々な問題があること、教室の状態や様子を知る必要があるのだということはわかりました。それから自分が各学校の保護者の方々とお会いし、話をすることが大切だと感じ、郡内の「ことばの教室」がある小学校を全て回りました。

地元の親の会活動 2 年目で県の会長を頼まれ、私が受けないと会がなくなるとまで言われ困ったことを覚えています。県の親の会が少し衰退しかけた時代です。当時、一緒に組んで事務局を受けてくれたのが先輩で市原市の黒澤美代子さんでした。二人で色々な先生の所や行政機関へ訪問し、わからないことを一つずつ調べて行きました。いつも私がこう進めて行きたいとか、こうしたら良いかもしれないと話す落ち着いた様子で次の役員会や理事会の資料を作り支えてくれました。今でも感謝しかありません。

全国親の会では、関東でまとめる役割が必要だということで副理事長を頼まれ、NPO 法人格を取得するためにお手伝いをさせて頂きました。

平成 25 年 8 月に【全国ことばを育む会創立 50 周年記念第 25 回全国大会千葉大会】を開催しました。千葉県は言語教育の発祥の地であるから記念大会でもあるので、どうしても千葉で開催して欲しいと要請がありました。正直、その時の県の会では 難しいのではないかと感じていました。みんなで結束する事が出来るか、先生の会である言語部会のお力添えを頂けるかなど色々な問題もありましたが、宮本事務局長の強いエネルギーに動かされる形で話が進んで行きました。そこで私も出来る事を一生懸命お手伝いしようと気持ちを引き締めました。仕事を持ち忙しい中、みんなで力を合わせ成功させる事が出来、本当に良かったと思います。大会はもちろん親の会の推進の為、未来の子供達の為という事もありましたが、もうひとつ今は亡き千葉県の言語教育の先駆者であり全国親の会を牽引して来た方でもある行木富子先生に大会を見せてあげたいという気持ちもありました。先生は教員の時は常に言語教育に邁進し、学校を退いてからもご自宅で子どもたちの指導や言語担当の教員の指導にも尽力されたくさんの先生方が受け継ぎ今も指導にあたってくれています。子どもと親（保護者）、教員が 3 人 4 脚で力を合わせ子どもたちが学びやすく、担当の先生方が困らないようにお互いが心をかけて、それぞれが独りぼっちにならないように助け合うのが親の会だと思います。これからも子どもたちのためにより良い活動を進めて頂けるように心からエールを送りたいと思います。

最後に色々ご指導頂きました先生方、教育関係者の皆様、一緒に活動してくれた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



前列中央・故行木先生、向かって左筆者、
右端、宮本事務局長、後列県役員関係者

会長をバトンタッチしました！

千葉県ことばを育てる会 元会長
相談役 牧 由加

新型コロナウイルス感染症の流行がおさまらない中で迎える2度目の夏はどの様にお過ごしでしたか。我が家では東京オリンピック、パラリンピック一色でした。体操や水泳など、お馴染みの競技はもちろん、今まで知らなかった競技も面白く、リアルタイムだったこともあり、リモコンを片手に競技を探す日々でした。賛否両論はあるとは思いますが、やはり一生懸命な姿を見ると応援しちゃいますよね。そして多くの感動をもらいました。

さて、この春7年間務めさせていただいた会長職をバトンタッチする事となりました。就任した当初の総会ではガチガチに緊張しながら挨拶をしたことを覚えています。あれから早7年。人前での挨拶に馴れることは最後までありませんでした。最後までガチガチ～残念～。

そんな頼りない私が無事に全うできたのは、すばらしい仲間（役員のこと。大先輩もいらっしゃいますが親しみを込めてそうよばせてください。）に支えられ、見守り、育てていただいたからだに感謝しかありません。また、行事や理事会などで各地区のみなさんとお話しできた事も嬉しかったし、勉強になりました。地区が違ったり、お子さんの困り具合は違っても、我が子を思う一生懸命な気持ちは一緒だと感じました。そして、こうして「くさぶえ」を手にしてくださった皆様にも感謝しております。読んでくださってありがとうございます。

私と親の会との始まりは息子の吃音です。幼稚園時代から船橋市の『幼児ことばの相談室』でお世話になり、小学校入学後も引き続き『ことばの教室』に通級させていただきました。「一週間どうだった？」で始まる『ことばの教室』。子どもにとっては、じっくり自分の話を聞いてもらえる特別な時間だったのではないのでしょうか。こころ、からだ、発達、いろんなバランスを整えてもらっていた気がします。いつ行っても安全で、ほっとする場所だったなあと思います。そして、今後もそうであって欲しいと願います。

役員を引き受けたきっかけは「同じ悩みのあるお母さん方とつながりたい」「分かち合いたい」という気持ちが私にあったからです。誰かと子供がドモリ出した時、自分も一緒に苦しい気持ちになること、先のことを考えて不安になる気持ちを聞いてほしい、そして共感したい。同じような気持ちを抱えてる人に「1人じゃないよ」と伝えられる場を造りたいという思いが今に至ってます。

ところで、今年度からバトンを引き継いでくれている加藤会長ですが、何事にも熱心で機転が利く頼もしい方で、人柄もよく、つい応援したくなる存在です。今年度の役員会では、どんどん話が進みワクワクします。もっと早く会長職を譲ればよかったと思うほどです。

千葉県ことばを育てる会は、新体制になった2021年も『きこえ・ことばの教室』に関わる方々の応援をさせていただきます。引き続き皆様のお力添えをいただけたら幸いに思います。

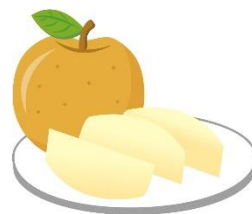


思い出：ドイツ村



第28回全国大会長野大会参加

県内地区親の会紹介 No.6



【鎌ヶ谷市ことばを育てる親の会】

相談役 広瀬 邦子

鎌ヶ谷市は、人口、約11万人、市内に小学校9校、中学校5校、県立高校2校と県内でも比較的小さな街です。息子の筑波大学付属聾学校幼稚部入学のために鎌ヶ谷市に転居してきました。幼稚部卒業後、地元の小学校に入学してからことばの教室とのお付き合いが始まり、昭和58年に数名の通級する保護者と1名のことばの教室の先生と「鎌ヶ谷市ことばを育てる親の会」を作り、現在に至っています。当時は市内に1校（五本松小学校）に「ことばの教室」があり、息子は別の小学校から通級していました。『何故、自分の通学する小学校に「ことばの教室」がなく、別の学校に通わなくてはいけないの?』という疑問から『自校にことばの教室を作って下さい!』と、市内全小学校に「ことばの教室」開設を目指して親の会活動が始まり、34年間会長を努め、4年前にバトンタッチをし、現在は相談役として応援をしています。

昨年度、市内8番目の「ことばの教室」が北部小学校に開設され、また全ことばの教室が通級教室に移行されました。残す1校にも早く開設されるよう「ことばの教室」と「ことばを育てる親の会」の存在を広めていけるように、啓蒙していきたいと思っております。他市の親の会も色々と活動をされていると思いますが、県内で鎌ヶ谷市だけの啓蒙活動のひとつである「ことばの教室の看板」をご紹介します。



五本松小学校



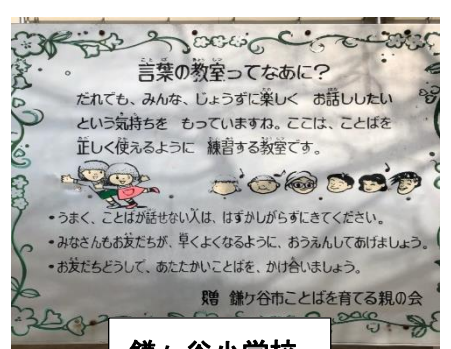
初富小学校



道野辺小学校



中部小学校



鎌ヶ谷小学校



東部小学校



西部小学校

看板は上段左→右へ、二段目左へと開設順に掲載しました。当時担任されていたことばの教室の先生に文章を一任致しました。カットを含め各校の先生方の思いが詰まっていると思います。戸外に立てているために老朽化してきた看板もあるため親の会の看板積立金で少しずつ直しをしています。各校の校門近くやことばの教室の前に立っています。

《2021年度・千葉県ことばを育てる会 事業日程・予定等》

- 4/10 (土) ことばの教室新担任研修会
- 4/22 (日) 第1回役員会
- 5/13 (木) 第1回理事会
- 6/5 (土) 全国研修会 ZOOM 開催
- 6/6 (日) 全国ことばを育む会総会 ZOOM 開催
- 6/10 (木) (役員会 中止)
- 6/17 (木) 令和3年度総会 書面表決 (理事会 中止) 第2回役員会
- 7/15 (木) 第3回役員会
- 7/22 (木) 第4回役員会 ZOOM 会議
- 9/2 (木) 第5回役員会 ZOOM 会議
- 9/16 (木) 第2回理事会 ZOOM 会議
- 10/7 (木) 第6回役員会 ZOOM 会議
- 10/22 (金) **講演会 講師：中島 展先生**
- 11/4 (木) 第7回役員会 ZOOM 会議
- 11/25 (木) 第3回理事会 ZOOM 会議
- 11/27 (土) 全国ことばを育む会関東ブロック会議
- 1/13 (木) 第8回役員会
- 2/3 (木) 第4回理事会
- 3/3 (木) 第9回役員会



<くさぶえ 72 号配布→発送>

詳細は次ページの縮小版チラシを！

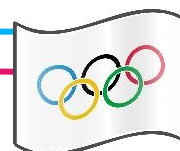
<くさぶえ 73 号配布>

～ 全国ことばを育む会ニュース ～

6月のZOOM総会で事務所の移転を決定しました。来年度から事務所を熊本市に置くこととなります。

6/5(土)全国研修会がZOOMで開催され、特別支援教育総合研究所の牧野泰美先生の講演に全国からの多数視聴参加がありました。「わかり合い、支え合い、育ち合い～子どもの思い、親の思い、教師の思いを見つめて～」『ことば』302号(9月発行)に掲載されているので是非お読みください。

全国ことばを育む会も、コロナ禍で集まって会議のできない状況になっていますが、コロナ以前は年3回程度しかできなかった理事会を今年度はZOOM会議にしたため毎月1回定期的に開催しています。事務所移転の変化のときに向けて、コミュニケーションの機会を増やす方向で努力しています。



《編集後記》

皆様はTOKYO2020、オリンピック、パラリンピックをご覧になりましたか？

コロナ禍でほとんどが無観客で開催されました。私は、前回の東京オリンピックの記憶は少しだけあります。それは聖火が点火された映像です。今回は開会式を録画しながらテレビで観ましたが開催についての賛否も様々な意見がありました。私はパラリンピックについては初体験だったのですが、開催するに至った最初のきっかけは傷痍軍人のためだったと知ってびっくりしました。傷痍軍人という言葉をごんな時代で耳にするとは思いませんでした。様々なことを考えるオリンピック、パラリンピックでしたが、感動は心の中にしまっておきたいと思います。

(編集担当：副会長 広瀬邦子)

子どものストレス 親のストレス

～子供の特性を理解した関わり方を知ろう～

2021年 10/22(金) 10:00～12:00

会場参加

先着 40 名

コロナ感染予防のため

YouTube で
ライブ視聴

後日公開
YouTube
視聴



講師 こども未来共生会

理事長・総括施設長

なかしま ひろと

中島 展 先生

こども発達支援センターそらいろ
子ども発達支援センター鴨川そらいろ
浦安市青少年発達支援サポートセンター
そらいろルームの主宰

会場

ホテルポートプラザちば

千葉市中央区千葉港8-5

JR 京葉線・千葉都市モノレール

千葉みなと駅より徒歩 1 分



申込フォーム

QR コードを読み取り、フォームにご記入の上送信してください。

申込締切は 10/12(火)です。

読み取れない場合やお問合せがありましたら

chibakenn5108@gmail.com までご連絡ください。

※コロナ感染予防のため消毒液の設置・換気・ソーシャルディスタンスに配慮しております。会場参加の方はマスク着用・検温にご協力ください。※参加費は無料、YouTube 通信料は各自のご負担となります。※YouTube 動画は後方からの撮影です。※後日公開の YouTube 動画は編集したものの公開となります※YouTube は限定公開 12/22(水)までです。※録音録画転送など無断配信は禁止です。